

ふれあい・コンタクト

円山動物園ボランティア会
代表世話役 上田 得一

動物と出会い、人と触れ合って心のときめきをコーディネートするために

ニュースレター

<『ボランティアの日』に参加して>

9月13日、恒例の『ボランティアの日』が開催されました。生憎の曇り空で途中少し雨に降られましたが無事終了する事ができました。今年も6班によるクイズ・スタンプラリーや、各班夫々のイベントが行われ子供達が元気よく園内を回りました。サル山班のイベントは『宝探し・尻当てクイズ・塗り絵のプレゼント』でした。その中で私は『宝探し』とスタンプ押しの手伝いをさせてもらい、子供達と接し、暖かい家族の様子など見て懐かしく思い新鮮な気持ちを感じる事が出来た一日でした。7期生のボランティアとして動物園に来る機会が増えて、沢山の行事があることを知りました。今後も出来るだけ行事に参加して色々な事を学びたいと思います。



（サル山班 大塚美鈴）



<ユキヒョウ双子の命名式>

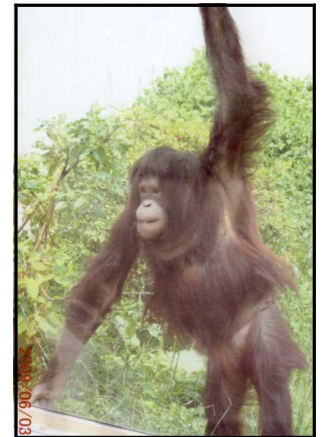
8月29日、ユキヒョウ双子の赤ちゃんの命名式が行われました。愛称は、地元札幌や全国から寄せられた1669通の応募の中から選考され、日本で生まれたオスらしく『ヤマト』、雪にちなんだメスらしく『ユッコ』に決定されました。ユキヒョウはヒマラヤなど標高2千~6kmの高山の断崖を飛び回り、自分の体重の3倍もあるブルーシープからネズミまで捕らえ、冬は半月に1回位の狩りになる等、山岳地帯の取り残された厳しい環境の中で生息。世界の動物園でも600頭が飼育されているのみで、絶滅危惧種となっています。今まで円山動物園で生まれた子供達（S63繁殖）と共に、『ヤマト』と『ユッコ』も全国で活躍してくれると思います。最近はジャンプ力もつき、『リーベ』と同じ一番高い場所で過ごすことが多く、外から目につきにくくなりました。この先も、『リーベ』母さんにいろいろと教わり遅く育つよう願っています。『ヤマト』、『ユッコ』、喜びを沢山ありがとう。

（熱帯動物班 水戸久仁子）

<いとしのレンボー>

5月1日、待望のオランウータン弟路郎のお嫁さん『レンボー』がインドネシア・タマンサファリ動物園からやって来ました。1998年10月7日生まれ現在11歳、『弟路郎』とは2歳違い年齢的にもお似合いの2人。5月末には青空の下、野外展示場で『弟路郎』とのお見合いをかねて一般公開されました。性格はやんちゃでいたずら好きとのこと、そしてチャームポイントは「目」と私は勝手に決めてみました！だってあのつぶらな瞳、可愛いとしか言いようないですね！！きっとあの目に見つめられた『弟路郎』は一瞬にして恋に落ちたのでは・・・室内展示場では同居中の2人、片時も離れたくない、放したくない『弟路郎』の姿。オランウータンの強いオスの「しるし」であるフランジが見る見る立派になっていく『弟路郎』を見てみるとこれも『レンボー』への愛のアピールかもしれない。早く2人のベビー誕生を期待してしまおうが、まだまだ子供らしさが残る『レンボー』のキュートな姿を楽しみたいですね。

（類人猿班 野田理江）



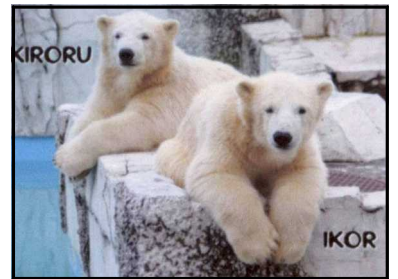
<動物園の森>

春から、大先輩を誘って森に通う様になりました。例年になく雨天日が多くて、65%は雨でした。傘をさしながらの撮影で写真はほとんどピンボケ状態。そんな中、春はエンレイソウに始まり少し前ではエゾトリカブトが可憐な花で出迎えてくれました。時には不思議な体験をすることも。森で突然何かが大爆発したようなごう音が響き大木の幹が割れて木肌をさらし出し、一瞬ですが水が滝のように流れました。今でも傷跡が生々しく、あれはいったい何だったのだろうか。天然記念物にも指定されている円山。その延長上に動物園の森があり、オオウバユリの群生等200種もの植物が生息して四季折々の花々が目を楽しませてくれます。森のボランティアさんは外来種の駆除から四季の変化に合わせた動植物の変化など多種に渡った知識が必要で、夫々の得意分野みたいなものを感じさせられました。研修も始まっており皆さんまたお会いしましょう。

（サル山班 田中一江）

< ホッキョクグマ・ツインズに命名 >

2006年国際自然保護連合が、ホッキョクグマを絶滅危惧種に指定してから、日本で初めて誕生したツインズ（日本では14年ぶり）に、愛称を公募したところ道内外から6000通程の応募がありました。厳選の結果、愛称はアイヌ語で『イコロ』（宝物）と『キロル』（道）に決定し9月6日、上田市長出席のもとに命名式が行われました。『イコロ』と名付けた西原君子さんは、絶滅危惧種に指定され繁殖が困難な貴い命なので、地球の「宝物」になってほしいと言う思いを込め応募されたそうです。又、『キロル』と名付けた久保葉子さんは、ホッキョクグマの繁殖活動で、ツインズが国際交流への「道」を開いてくれる事を期待して命名されたそうです。素晴らしい愛称がついて、まずはめでたしですね。（世界のクマ班 笹川市太郎）



< 敬老の日・長寿動物へ特別メニュー >



9月21日の『敬老の日』、円山動物園の4種類の長寿動物に特別メニューが振る舞われました。コンドルの『ウルスラ』は推定53歳、国内最高で人間なら80歳以上。カバの『ドン』は40歳、人間だと約80歳。チンパンジーの『ガチャ』は推定43歳、人間で言えば70歳以上。エゾヒグマの『栄子』は36歳、人間では80歳以上。その長寿を祝い好物のご馳走が出されると、夫々が本当に美味しそうに食べていました。食欲旺盛な動物たちを見ていると、この先もずっと長生きしてと願わずにはいられない一日となりました。（熱帯動物班 水戸久仁子）

< フンだって役に立つ？ >

草食動物のフンを利用して親子でハガキをつくる講習会が8月1・2・9日の3日間、動物園センター体験学習にて行われ、小学生を中心に賑わいました。子供達は煮沸消毒済みのシマウマのフンを見て触って「草ばかり食べているからウンチも草みたいだね」と興味津々。乾燥したフンと牛乳パックのパルプ・ヤマト糊・絵の具・水をペットボトルに入れ良く振って混ぜ合わせてから、型をつかって成形・脱水してハガキに仕上げます。「絵の具は入れすぎないで」「もうちょっとよく混ぜようね」場面をとらえて声をかけながらも、できるだけ子供達が自分の力で完成させるように補助をするボランティア担当者。仕上げにホットプレートやアイロンで乾燥させる時などは親やボランティアの手を借りましたが、がんばって自分の力で作った世界で一つのシマウマカードはステキな宝物であり、夏休みの貴重な体験となった事でしょう。（こども動物園班 西川明子）



< ホッキョクグマの不思議展 >

今夏は何と言ってもホッキョクグマツインズ。子供達に自然の大切さや地球温暖化問題を考えてもらうには、この人気に乗せてもらうのが一番と私達ボランティアも思っていました。タイミング良く『ホッキョクグマの不思議展』が動物科学館で小中学校の夏休みに合わせて行われました。会場に入ると、先ず温暖化が起こる仕組みが判る実験体験展示。そして3m近いホッキョクグマの実物大の像が、覆いかぶさるように迫ってきます。目玉は『ララ』の産室体験。ホッキョクグマの毛の構造と皮膚を真似て作られたララスーツを着て暗い部屋に入ると、サーモカメラが体温のある顔と手だけを黄色や赤に映し出し、スーツを着た体は真っ暗。他に「ララの給食」や「ツインズとおき写真館」と楽しみながら学べるようになっていました。（世界のクマ班 山川泰弘）

< 円山・夏の風物詩『氷のプレゼント』が続く >

7月20日、映画『クヌート』からホッキョクグマへ氷柱とホッケとリンゴを埋めたカキ氷のプレゼントがあり、『ララ』が早速掘り起こしホッケを探しました。ツインズも真似をして氷を掘るなど親子の楽しい一時でしたが、ツインズの一頭がプールに落ちるといハプニングもありました。（世界のクマ班 福田 努）



8月2日、『動物園納涼イベント』が行われ、レッサーパンダ、ホッキョクグマに氷がプレゼントされました。レッサーパンダの『セイタ』君は、氷に乗って夢中でリンゴをかじっているうちに自分の手足が氷にくっつき離れなくなって、慌てもがく姿が“笑”を誘っていました。ホッキョクグマ『ララ』の子供達は、氷の山に駆け寄り、氷に体を擦り付けたり（クールダウン？）、プールの中に氷塊を落としたりして遊びました。（世界のクマ班 小松久恭）



サル山には155kgの大きな氷が6個もプレゼントされました。氷の中にはリンゴやオレンジ等のフルーツが入っており、おサルさん達は興味津々！やがて氷の上に果物が置かれると一斉に集まり思い思いの格好で食べ始めました。木の上で食べる子、片手でキープしながら食べる子など。取り合いでバトルも勃発。いくら見ても飽きないサル山で、益々おサルさん達の事が好きになった1日でした。（サル山班 生出夏海）

今回はカバ・エランド担当の松田博美さんをご紹介します。松田さんは、笑顔が素敵な優しい雰囲気を持った方です。私たちの色々な質問に快く答えてくださいました。

Q 動物園で働くことを目指した動機やきっかけは何ですか？

A 2007年から勤務しています。それまでは違う仕事でしたが、転職が訪れ動物や市民と直接触れ合えることから希望しました。

Q お仕事の内容は？

A 1年目ダチョウ、シマウマを担当しました。去年からカバ・エランドの担当をしています。仕事の内容は、エランド・カバの飼育全般ですが他にも、お客様に動物がエサを食べるところを見せたりもしています。

Q 担当動物のエピソードを。

A カバの『ドン』は寒くなると外に出たがりません。掃除の時は外に出てほしいので、その様なときはエサでつります。ちなみにエサは人参ですが、エサをたくさんあげてもなかなかスムーズに出ません。その兼ね合いが難しいですね。エランドの『ラッシュ』(メス)が赤ちゃん出産後、『プッチョ』(オス)となかなか同居できませんでした。何故かと云うと『プッチョ』が『ラッシュ』のエサを食べてしまうからです。『プッチョ』はどんどん体格が大きくなっていくのでたくさんエサを食べます。『ラッシュ』も授乳中でエサをしっかり食べなければいけません。ですから同居は慎重にしました。

Q それぞれの動物との接し方のコツなどはありますか？

A 『ドン』は飼育されて30年以上経っているため飼育員をよく見ています。新しい飼育員の言う事を聞かなかったりします。又、掃除で外に出したい時等に強くひいたりすると、言う事を聞かなかったりします。特に連続してやってしまうと全然外に出てくれません。機嫌をそこねると大変です。そんな時は10分くらい間をおいて最初から手順をやり直します。その点、エランドは飼育年数が短いので扱いやすいです。人に寄ってきますし、エサを外に出すとすぐに出てくれます。

Q 仕事で一番難しい点は？

A エランドは今年赤ちゃんを出産しましたが、初めて体験する事の難しさがあり、いろいろ勉強の連続でした。又、カバは軟らかい草が一番好物なので、硬い草になると、なかなか食べてくれません。食べない場合は乾草(干し草)や人参やキャベツなど違う物で試しながらあげています。

Q エサやりなどで特別気を付けている事はどんなことですか？

A 食欲が落ちた時にどんなエサで代用できるか色々試しながらエサをあげてみます。エランドはわりと何でも食べますが、その状況を観てエサの量の増減をしています。たくさん量をあげてしまうと、フンが軟らかくなったりするので注意が必要です。カバはりんご、青草、乾燥草をあげたりしますが、急に全部量を変えたりすると体調を崩すので徐々に混ぜてあげています。

Q ボランティアに要望したい事、またボランティアと何か共同でしたい事などがあれば聞かせて下さい

A カバは今年からアニマルファミリーの中でドンとザンの誕生日会を行う事になり、動物園行事としての誕生日会が無くなりました。その為、アニマルファミリーとは別に、一般のお客様向けにも何か楽しい行事をしてみたいです。その時はボランティアの力を借りてやっていきたいと思えます。また他にもエランドの行事等と一緒に出来る事があればやりたいですね。

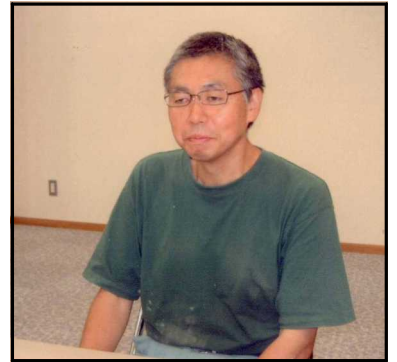
Q ボランティアに対しての注意点などがあれば聞かせて下さい

A とくに注意点はありますが、聞かれた事には答えたいので何でも質問してほしいですね。また、飼育員とボランティアとの垣根をつくらず「お客様へのおもてなしを第一に」との目標を持ってみんなで是非頑張りしたいと思います。

Q これから取り組みたい事はなんですか？

A 今はお客様と直接ふれ合えるということを第一に考えています。また自分なりに何が出来るかを考えて、他の人とは違う事をやっていきたいです。

最後に、お忙しい中取材にご協力頂きまして有難うございました。私達もとても楽しい時間を過ごせました。松田さんは大変前向きにまた積極的に仕事に取り組んでいる方だと思えました。是非みなさんもどんどん質問してみたいかたがでしょうか？
(類人猿班 山口 薫 田中順子)



< 動物慰霊祭が行われました >

9月24日、園内の動物慰霊碑で『動物慰霊祭』が開催されました。最初に酒井園長から挨拶があり、次に上野課長から「この一年間にキリンの『たかよ』、ダチョウなど56種83体の動物が亡くなった」と報告され、宮の森幼稚園児と園長、関係者の皆さんが慰霊碑に夫々花をたむけ動物の冥福を祈りました。(こども動物園班 小熊 瞳)

<トラ双子の赤ちゃんとのふれあい(しろとり動物園旅行紀)>

TVでトラの赤ちゃんとのふれあえる事を知り、藤川さんと6月22～23日四国のしろとり動物園へ行きました。人工飼育の父(ベンガルトラとホワイトタイガーのハーフ)と母(ホワイトタイガー)の赤ちゃんは4月2日生まれ。色違いの双子の姉妹はベリーちゃん(ブラウン)とチェリーちゃん(ホワイト)、まだ7kgで乳歯と牙が生えてきたところ。サークルの中ではしゃいだり眠ったり。たくさん抱っこして触りました。歯の感触や肉球も。小さくても目はキリリとし手足は大地を駆ける頑丈でしっかりとした骨格です。サーバルキャットの3つ子も4月まではふれあいOK。入園料のみで体験が可能です。



この動物園は、クジャク・カモ・アヒルたちが付近の山に自由に行き来する。動物の飲み水はミネラル豊富な湧き水利用。又、犬がトラを育てたことでも有名です(まだ1つの檻にいました)。経営者は「自分の山が2つある。将来はサファリパークを作りたい」と語っていました。阿波踊りや鳴門の渦潮。観光も満喫し素晴らしい思い出となりました。

(類人猿班 舟山良子)

<ある日の準備作業(は虫類班)>



ボランティアの皆さん今日は。私は3期生、は虫類班の高嶋昭英です。今、班の皆で作業しているのは、各種イベントに使用予定の「見て、触ってクイズに答えていただく卵」作りや、10月18日(日)のイベント『小鳥の巣作り』の小枝や台座作り、スネークアート展に向けてのグッズ「蛇人形」作り等の準備作業です。先日は巣作りの台座作りには、上田世話役代表や類人猿班の方々の助っ人を得、さらに今年度我が班に加わった7期生も参加、ケガも無く無事作業を終えました。毎年の事ながら園の管理課三上さんにもお世話になり有り難うございました。蛇人形は自宅でも作る事が出来、テレビを見ながら指を動かしハマッています。は虫類班は、世話役を中心に言いたいことを言い、和気あいあい、「楽しむ」を motto にボランティアを楽しんでいます。

(は虫類班 高嶋昭英)

= 投函コーナー =



*** ある日のツアーガイド *** 8/5、市内のミネルヴァ英会話スクールの一行約30名が訪れ、英会話実習を織り込んだツアーガイドが行われ、5人のボランティアが対応。子供達と一緒に語学実習等で楽しい半日でした。

(熱帯動物班 田中茂雄)

*** 発見!! *** 8月中旬動物園の森、年老いてお腹に卵を詰ませたアオダイショウを見つけました。近づいても逃げる様子はありません。一週間後、その姿はありませんでした。はたしてその行方は? 結末は?

(は虫類班 藤田叶子)

*** チリモンを探せ *** 選別前のチリメンジャコから小さな海のモンスターを探そう!とのイベントを『ボランティアの日』に実施。ボランティア7期生山口さんの活躍でチリモンコーナーが大好評でした。

(こども動物園班 西川明子)

*** 交流会 *** 9/7、金澤前円山園長の引率で札幌市ボランティア連絡協議会より30名の方々が来園され、日頃の活動に対する意見交換や園内のツアーガイド等が行われました。活発で楽しく有意義な交流となりました。

(こども動物園班 小熊 瞳)

*** 裏側探検 *** 8/20、普段は見ることが出来ない子供動物園の台所等の裏側を飼育員三浦さんの案内で見学しました。道外の小学生、保育園児等30名もの親子が参加。貴重な体験をして、どの子供達も大満足の笑顔でした。

(サル山班 田中一江)

編集後記

最近、円山動物園は入園者が増加の傾向で園内はかなり賑やかになりましたね。特に人気者のユキヒョウやホッキョクグマの双子の前は、いつも人だかりで嬉しい限りです。今回から『キーパーさん紹介』の特集記事を再開しました。シリーズで毎号に掲載予定ですので、ご期待ください。このところ、各班の活動の中で「7期生が活躍」との話を耳にします。又、早速、7期生による記事の投稿もあり大変頼もしく感じています。今後共よろしくお祈りします。

(次号の原稿締め切りは12/5です)

編集スタッフ：山川泰弘 西川明子 松山幸子 小熊 瞳 田中一江 星原恵子 藤田叶子 紺野仁一 水戸久仁子

大地 淳 田中茂雄 伊藤 剛

編集責任者：丹野健治 (TEL/FAX 011-232-8151) 佐藤正俊